

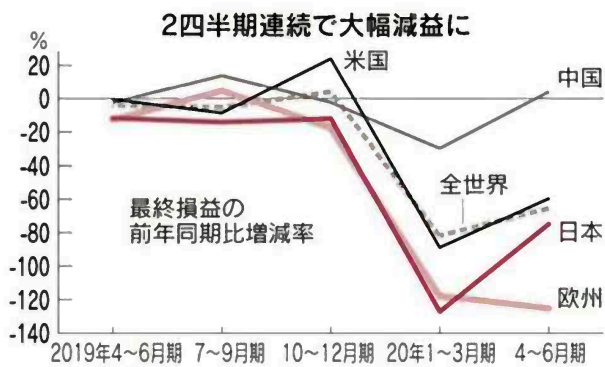
新型コロナウイルスの感染拡大で企業業績が大幅に悪化している。世界の主要企業を対象に2020年4～6月期決算を集計したところ、3社に1社で最終損益が赤字だった。都市封鎖が直撃し、自動車や小売り・サービスなどが業種全体で赤字となった。自己資本(3面) QUICK FACTS は

### 売上高は16%減

QUICK・ファクトセットの企業財務データを使い、30～31日までに決算を発表した約4500社を調べた。4～6月は生産停止や店舗閉鎖が響き、売上高が急減した企業が多い。リーマン・ショック時の08年10～12月期には2社に1社が赤字だった。それに次ぐ赤字の多さだ。

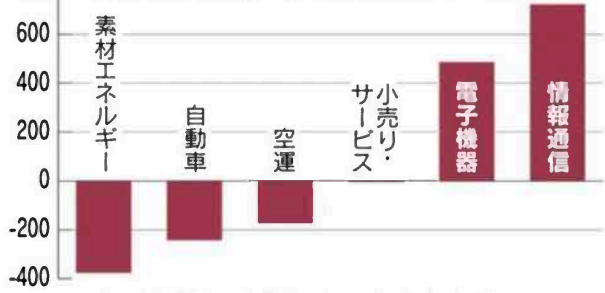
未発表の企業の市場予想も含めて4～6月期決算を集計すると、純利益は前年同期比65%減となる。減益幅は減損などが多かった1～3月の8割減に比べてやや小さいが、売上高は16%減と、1～3月の5%減より減収幅が拡大した。主要国の国内総生産(GDP)が4～6月に大幅に落ち込んだと同様、企業業績も売り上げの面では4～6月が厳しくなっている。

感染の拡大はヒトやモノの移動を制限し、グローバルな供給網を基盤にする自動車産業は業績の落ち込みが厳し



2四半期連続で大幅減益に 最終損益の前年同期比増減率

コロナ禍では業績の業種格差が大きい (集計対象企業の損益の合計、2020年4～6月期)



4～6月期に赤字になった主な企業

| 社名             | 業種     | 最終損益の赤字額 |
|----------------|--------|----------|
| 英蘭ロイヤル・ダッチ・シェル | 石油     | 181億ドル   |
| 米デルタ航空         | 運輸     | 57       |
| 米レイセオン・テクノロジーズ | 航空機・機械 | 38       |
| 米シュルンベルジェ      | 石油     | 34       |
| 米ウェルズ・ファーゴ     | 金融     | 26       |
| 日産自動車          | 自動車    | 26       |
| 独ダイムラー         | 自動車    | 22       |
| JR東日本          | 鉄道     | 14       |
| 米ラスベガス・サンズ     | 娯楽     | 8        |
| 米スターバックス       | 外食     | 6        |

# 世界企業、3社に1社赤字

完成車メーカーは軒並み赤字となり、31日に4～6月期決算を発表したマツダは66億円の赤字となった。独ダイムラーが、米国やメキシコでの生産停止に踏み込むなど各社がコスト削減を迫られている。

影響は幅広い企業に及ぶ。31日発表した住友電気工業はワイヤハーネス(組み電線)など自動車部品の落ち込みで414億円の赤字となった。オランダのNXPセミコンダクターズも車載半導体が35%落ち込み、2四半期連続の最終赤字だ。車載半導体は7～9月も前年同期比で2割程度の減少が続くとみる。

店舗閉鎖が世界で広がり、小売り・サービスも業種全体で赤字となった。米スターバックスの4～6月期決算では、既存店売上高が前年同期に比べ4割減り約6億8000万ドルの赤字となった。配送が増えるなど「消費者は生活習慣を変えてきている」(ケビン・ジョンソンCEO)が、全体を底上げするには時間がかかる。日本でもJR各社や百貨店など内需企業に赤字が目立っている。

### 半導体・IT支え

リーマン危機では金融の目詰まりが起きて全体的に利益が減った。コロナ下では在宅勤務の広がりや巣ごもり消費など新たな需要も生まれている。なかでも、デジタル化の加速が目立ち、半導体やIT(情報技術)企業や、デジタルを武器にする企業は利益が急増している。

情報通信に欠かせない半導体企業では45%が増益だ。受

## 主要4500社の4～6月 3割は増益 主役交代加速

託製造大手の台湾積体電路製造(TSMC)は4～6月に最高益を更新した。魏哲家CEOは「次世代通信規格(5G)は大きなトレンドの波として押し寄せており、力強さは続いていく」とみる。小売りでも電子商取引(EC)は急拡大した。米アマゾン・ドット・コムは4～6月の売上高が前年同期比4割伸び、ECプラットフォームを手掛けるカナダのショップファイも最高益だった。ヤフーを傘下に持つZホールディングスもECが伸びた。

### 資本不足リスク

業績の先行きについては、市場では7～9月に前年同期比2割減、10～12月に4%減と年末に向けて回復が見込まれている。ただ、景気のV字回復を前提にした予想も含まれ、下振れ懸念が強い。経営者にも「3月時点で期待していたより、経済回復には時間がかかる」とみている(米IBMのアービンド・クリシュナCEO)との声がある。

感染が収まらず、外出規制が再び導入されればコロナによる業績格差はさらに続く。逆風となる企業は赤字が長引き資本不足のリスクが高まる。カナダのトスカナ・エナジー・インカムなど石油関連企業では債務超過が増えている。北欧大手スカンジナビア航空(SAS)、2～4月期決算は債務超過に転落した。供給網の見直しやECへのシフトなど、ウィズコロナの時代に適した企業に変わるかどうか、収益の耐久力を左右しそうだ。(増田咲紀、村上徒紀郎)